

物価、マイナス基調続く

総務省が19日発表した10月の消費者物価指数（CPI、2020年＝100）は変動の大きい生鮮食品とエネルギーを除く「コアコアCPI」が99・2と前年同月比0・7%下がった。生鮮食品を除く「コアCPI」は0・1%上昇したが、エネルギー価格の上昇を除けば物価は下落基調が続いている。

コアコアCPIが前年同月を下回るのは7カ月連続。携帯電話大手の格安プラン導入で携帯通信料が53・6%低下したことが背景にあり、同要因

エネルギー除く指数 7カ月連続下落

だけで物価を1・47%押し下げた。インフレが進む米欧では食品とエネルギーを除く指数でもプラスで推移しており、日本の物価低迷が鮮明になっている。

一方、足元の資源や原材料価格の上昇は2～3カ月遅れで最終財に本格反映される可能性がある。SMBC日興証券の宮前耕也氏は「ガソリン代などの上昇は年末年始まで続く。食品も来年以降に大手メーカーの値上げに追随する形で価格転嫁するところが出てくるだろう」と予測する。